

01 矢田川河口部

保全 海岸砂丘草原・塩性湿地があり、汽水域は潮止堰が無い。



02 矢田川下流部 (河口～守柄川合流付近)

課題 河道付け替えの直線化により、河川形態が単調化している。また、植生面では、河川に特有な群落でもなく、人工的に改変された環境でもない、路傍雑草群落の優占度が高い。

03 矢田川下流部 (河口～加鹿野井堰)

保全 下流域まで比較的低い水温が維持されており、冷水性の魚類が豊富にみられる。遡上力の弱い希少な通し回遊性*1の魚類の生息域は、この短い区間に限られる。

課題 加鹿野井堰 (比高約 2m) には、魚道はあるが、通し回遊性*1の魚類の大半がこれより上流ではみられず、堰が遡上に影響している。

04 矢田下流部 (河口～山田川合流付近)

保全 蛇行が明瞭で、大きな淵が多く湛水域は少ない。水辺には、後背水域もみられ、自然林・二次林が接する区間も多い。下流域としては非常にすぐれた河川形態・水辺環境が残っている。アユの漁場。

課題 消失・矮小化した名前のある淵が多い。

05 大谷川・小原川

課題 水涸れ区間が夏期に広範囲に及ぶ (農業取水が原因?)。



12 矢田川上流

保全 上流側は、県下でも有数の標高の高い山地溪流で、典型的な山地溪流の魚類相がみられる。源流部では、下流側はアユの漁場となる。

課題 下流側では岩盤の露出が目立つ区間があり、底生動物の種数が少ない地点があった。また、上流側でも底生動物の種数は、中流域～上流域としてはやや少ない傾向にあった。名前のある淵で、消失したものがあつた。

06 山田川

課題 一部に横断工作物が高密度で存在し、魚類の遡上を阻害している。

09 湯舟川

保全 中流域では、オオサンショウオの生息情報がある (聞取)。

課題 消失・矮小化した名前のある淵が多く、河川形態の単調化が示唆された。底生動物の種数は、中流域～上流域としてはやや少ない傾向があつた。

10 作山川

保全 水辺に自然林・二次林が接する区間が比較的多く、下流域は、横断工作物が少ない。

課題 上流域の小河川としては、低水護岸率が高い。とくに上流部では、魚道のない横断工作物が高密度で存在する。

11 大谷川

課題 上流部は、横断工作物が水系内でもっとも高い密度で存在する。低水護岸率も上流域としては高い。流量が少なく水が涸れる箇所がある。

07 矢田川中流部・湯舟川下流部 (山田川合流付近～石寺ダム・入江ダム)

課題 発電による取水により、長い減水区間が続いている。流量減少の影響か、水温が下流地点よりも高い傾向がある。浮石率が下流よりも低い傾向にあり、河道が固定化傾向にある。消失・矮小化した名前のある淵が多い。



08 石寺ダム・入江ダム

保全 水辺に自然林・二次林が接する区間が比較的多い。

課題 通し回遊性*1の魚類の豊富さでは、県下でも屈指の水系であるが、比高が高く、魚道の無いダムが本川中流部・主要支川の下流部に位置することで、連続性が損なわれている。



全体区分

○ 各調査結果を総合的に判断・整理したゾーニング

魚類・底生動物の現地調査地点

● 調査地点

回遊種の確認上限

▼▼ 近年の確認上限

▼▼ 過去の確認上限

植生から見た流程区分

— ツルヨシ・ネコヤナギ型

— 移行帯

— オギー・ツルヨシ型

— 感潮域

横断工作物の確認位置 (水面比高0.2m以上)

○ 魚道あり

○ 魚道なし

聞取調査による名前のある淵の現状

● 無くなった

● 浅くなった / 狭くなった

● 変わらない

● 不明

予察調査による河川環境の記録

— 課題が見つかった箇所

*1 「通し回遊性」…海と川を往復する生活史を送る性質